

“水俣の魚は扱わぬ”

仲買組合、小売商で実施

興海産物仲買協組（理事長、生駒広民、組合員六十四人）と熊本魚市買受人協組（理事長、北村武男、店頭に掲示した。これは「熊本市民一、三千四百人」では、このほど民を水俣病から守るため、こと



し一月末の総会できりきめ、実施にうつしたもの。

生駒理事長は「水俣の漁業者の生活のくるしきはよくわかる。

しかし熊本市に患者が発生すれば大へんことになる。そこで早くから組合内で不買を望む声があり、しかも水俣湾内で密漁

「写真」は熊本市内の魚小賣店にはられたビラ

が行なわれているときいて放っておけなくなった。当局の結論がでるまで止むなかつた措置だ」といつている。

このため県では「かえって人心をまどわすのではないか、それに沿岸漁民の死活問題でもある」と早急に県漁連と話し合い、対策をたてることになった。

▽森永農商工水産部長の話 それ

ほど市民が不安をいだいているかどうか。とにかく実情を調べたうえで何とか手を打ちたい。

▽熊本熊本魚会社社長の部 水俣地方の魚を売ってくれるなどの申し入れは前からあった。こちらとしては漁民の死活問題でもあるし、もつてくる魚を売らぬわけにはいかない。八代以南の魚は相当入荷している。小売、仲買の組合の人は買わなくてもそれ以外の業者が買いついていくので結構はけている。

▽大層熊本商工会議所事務局長の話 最近魚の売り上げが伸び悩

んでいる。その原因を水俣病と結びつけて考えているのだから、原因はほかにあるのではない。県や保健所が売買を禁止してはいないのに売らないとは神経過敏すぎる。大げさに心配することは逆効果を招く。団体を前にした大切な時期だけに困る。自己防衛の気持ちにはわかるが、外来者にまで不快な感じを与えるのはどうかと思う。いろいろな意味でマイナスになるのではない。危険区域外からの水揚げは心配ないはずだ。